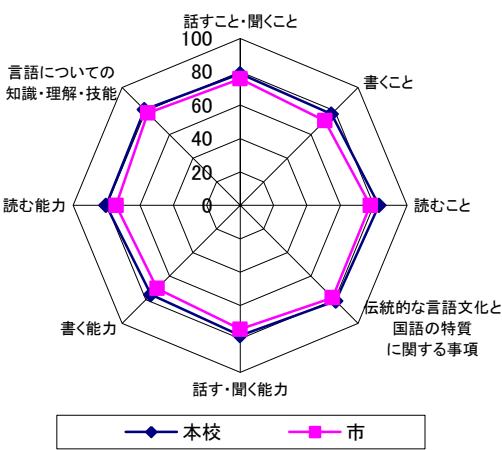


宇都宮市立峰小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	78.9	75.9	71.7
	書くこと	77.4	71.8	73.2
	読むこと	80.3	78.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.0	78.2	79.4
観点別	話す・聞く能力	78.0	74.2	70.8
	書く能力	75.7	70.4	71.0
	読む能力	80.3	74.3	75.0
	言語についての知識・理解・技能	81.1	78.2	79.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

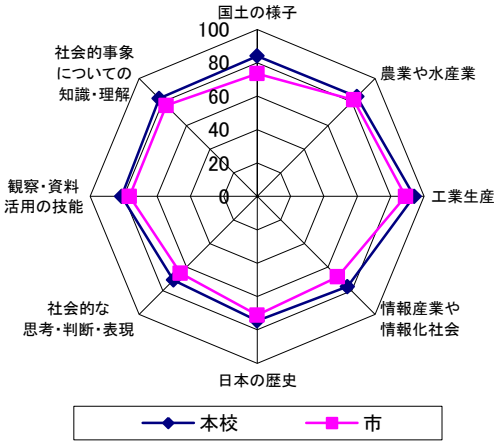
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市の平均を約3%ほど上回った。 ○話合いの内容を聞き取り、テーマに合った発言内容を考え記述する問題に関しては、市の平均を6%ほど上回っている。	・日頃の学習の様子から、スピーチに関しては抵抗なくできているように感じる。友達のスピーチを聞き、内容にあった質問をし、答える学習を充実させることで、さらに力を高めていきたい。
書くこと	○市の平均を約6%ほど上回った。 ○グラフから読み取ったことを記述する問いでは、市の平均を約8%ほど上回った。 ●グラフから読み取ったことに関して、自分の考えを述べる問いでは、市の平均を上回ったものの、自分の考えを適切に表現できない結果も見られた。	・国語に関してだけではなく、社会などの時間でもグラフや資料を細部まで読み取り、気付いたことを発表させる活動を重視した成果と考えられる。 ・自分の考えを発表させたり、作文指導を充実させたりして、自分の考えを述べることを抵抗なく取り組めるようにする。
読むこと	○市の平均を約2%ほど上回った。 ○説明文の内容を的確に読み取る問題に関しては市の平均を12%上回った。 ●登場人物の心情を読み取る問題に関しては市の平均を約13%下回った。	・文章を論理的に捉え、文の要になるところに線を引き説明する活動を重視して、引き続き説明文の読み取りの力を高めていきたい。 ・読書活動の充実を図り、物語文や小説に親しむ時間を確保する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市の平均を約3%ほど上回った。 ●尊敬語に対して謙譲語の使い方が不十分である。 ●漢字について、読む力に対して書く力が不十分である。	・敬語について、普段から使うことで理解を深めたい。特に謙譲語については、日常生活で利用場面が少ないために、初めて聞く言葉が多いことも考えられるので、意識して利用場面を増やす。 ・普段から既習の漢字については、使うことで知識の定着を図る。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	84.1	73.6	76.2
	農業や水産業	84.6	81.9	77.5
	工業生産	94.1	88.9	83.4
	情報産業や情報化社会	76.5	68.2	61.0
	日本の歴史	74.6	71.1	70.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	70.9	65.1	62.1
	観察・資料活用技能	81.2	76.5	75.2
	社会的事象についての知識・理解	83.0	77.1	76.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

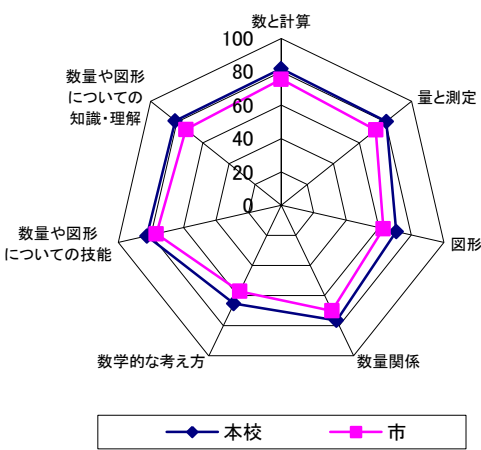
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○市平均をおよそ9%上回っている。 ○全ての問いで市・全国の平均正答率を上回っている。 ○「主な国の名称と位置を理解している」の正答率は市平均を15%上回っている。	・基礎的事項を授業の中でしっかり押さえた成果と思われる。 ・今後も基礎的事項については、教科書の内容を押さえると共に、作業・練習問題等を変化をつけながら繰り返し練習する。 ・領土の問題等、今日的な問題も意識して取り上げる。 ・資料の読み取り等で内部情報を高めた上で、問題について話し合いができるよう、授業を組み立てる。
農業や水産業	○市平均をおよそ5%上回っている。 ○全ての問いで市・全国の平均正答率を上回っている。 ○資料の読み取り、考えることができる」は市の平均正答率を5%上回っている。 ●「品種改良の目的について考えることができる」はほぼ市の平均と同じである。	・基礎的事項を授業の中でしっかり押さえた成果と思われる。 ・今後も基礎的事項については、教科書の内容を押さえると共に、作業・練習問題等を変化をつけながら繰り返し行う。 ・農水産業をめぐる諸問題等、今日的な問題も意識して取り上げる。 ・資料の読み取り等で内部情報を高めた上で、問題について話し合いができるよう、授業を組み立てる。
工業生産	○市平均をおよそ5%上回っている。 ○全ての問いで市・全国の平均正答率を上回っている。 ○「資料を読み取って考え・表現することができる」は市の平均正答率を9%上回っている。	・基礎的事項を授業の中でしっかり押さえた成果と思われる。 ・今後も基礎的事項については、教科書の内容を押さえると共に、作業・練習問題等を変化をつけながら繰り返し行う。 ・工業生産・貿易をめぐる諸問題等、今日的な問題も意識して取り上げる。 ・資料の読み取り等で内部情報を高めた上で、問題について話し合いができるよう、授業を組み立てる。
情報産業や情報化社会	○市平均をおよそ8%上回っている。 ○「資料を読み取って考えることができる」は市の平均正答率を11%上回っている。	・基礎的事項を授業の中でしっかり押さえた成果と思われる。 ・今後も基礎的事項については、教科書の内容を押さえると共に、作業・練習問題等を変化をつけながら繰り返し行う。 ・情報リテラシー等、今日的な問題も意識して取り上げる。 ・資料の読み取り等で内部情報を高めた上で、問題について話し合いができるよう、授業を組み立てる。
日本の歴史	○市平均をおよそ3%上回っている。 ○2問を除き、市・全国の平均正答率を上回っている。 ○「廃藩置県について理解している」は市の平均正答率を18%上回っている。 ●「キリスト教の伝来」「幕末から明治の人物」の問いで市の平均正答率を下回った。	・基礎的事項を授業の中でしっかり押さえた成果と思われる。 ・今後も基礎的事項については、教科書の内容を押さえると共に、作業・練習問題等を変化をつけながら繰り返し行う。 ・歴史に興味をもてるよう教材提示の仕方等工夫する。 ・国会・外交問題等、今日的な問題も意識して取り上げる。 ・資料の読み取り等で内部情報を高めた上で、問題について話し合いができるよう、授業を組み立てる。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	81.9	75.6	75.8
	量と測定	80.6	72.5	71.2
	図形	70.7	62.8	71.0
	数量関係	76.5	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	65.4	57.2	52.7
	数量や図形についての技能	82.5	76.7	74.1
	数量や図形についての知識・理解	81.2	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

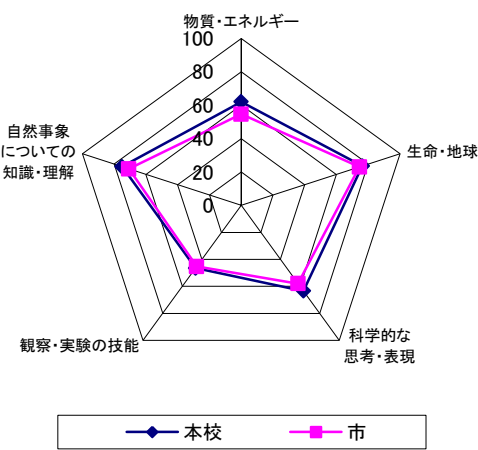
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○正答率は全体として市より6.3%上回った。整数×分数、分数÷分数の計算は正答率が90%を超えた。反復練習の成果が表れたと考えられる。 ●通分を必要とする分数の足し算は正答率は79.1%で市の80.1%を下回った。	・プリントやドリル等の計算問題を繰り返し練習する。通分においては方法を確認し、分母は最小公倍数を用いてできるように習熟を図る。
量と測定	○どの問題においても正答率は市よりよく、全体としては80.6%で市より8.1%上回った。 ○問題別では、円柱の体積の立式が正答率98.5%と高かった。 ●「単位量当たりの大きさ・速さ」の問題は、正答率が49.3%だったので正答率を上げる必要がある。	・基本の公式「道のり＝速さ×時間」は押さえ、式の変形は間違いなくできるように指導する。また公式を使用するには単位をそろえる必要があることを説く。線分図などで解法を確認し立式する。練習問題の数をこなし、確実にできるよう指導支援に努める。
図形	○全体として市平均をおよそ8ポイント上回った。 ○対称な図形、合同図形の作図の問題は市の正答率を上回った。 ●円周の長さを求める問題は、38.8%と市の46.3%を下回った。	・公式を確実に覚えるように支援する。円周の公式を半径を使うと「半径×2×3.14」となり、面積の公式と混同しがちである。指導支援の手立てとしては、1問中に同時に面積と円周について出題し単位も併せ確認する。
数量関係	○市平均を6.4%上回った。 ○特に帯グラフの読み取りが、98.5%とよくできた。 ●割合と比の説明問題の正答率は、39.6%だったので正答率を上げる指導をする必要がある。。	・記述式の問題を苦手とする児童が多く、個別指導、グループ、スモールステップ等の指導をする。発表時は条件が全部満たされているかを確認し、教師の解説は児童が理解できるように明確にする。初期は簡易なものを扱い、段階的に難易度を考慮する。

宇都宮市立峰小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	62.1	54.6	57.5
	生命・地球	76.4	74.5	75.4
観点別	科学的な思考・表現	63.4	58.0	59.6
	観察・実験の技能	46.5	45.3	50.6
	自然事象についての知識・理解	75.0	70.7	72.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○市平均をおよそ8%上回っている。 ○2問を除き市・全国の平均正答率を上回っている。 ●「七輪の炭の火を強くする方法がわかる」では市の平均正答率を下回った。 ●「水溶液から水を蒸発させたのようすから、溶けていたものが固体か気体かを判断できる」では市の平均正答率を下回った。	・市平均を上回るものの正答率が低く、基礎的事項については、教科書の内容を押さえると共に、作業・練習問題等を変化をつけながら繰り返し行う。また、実験などの体験を通した学びを振り返る時間を定期的に設けることで、知識の定着を図っていく。
生命・地球	○市平均をおよそ2%上回っている。 ○3問を除き市・全国の平均正答率を上回っている。 ●「でんぷんが少なかったことがわかる」では市の平均正答率を下回った。 ●「血液から不要なものを取り除く器官をじん臓とよぶことがわかる」では市の平均正答率を大きく下回った。 ●「上弦の月が南中する時刻がわかる」では市の平均正答率を下回った。	・基礎的事項を教科書を中心にしっかり押さえていくとともに、練習問題や復習問題を変化をつけながら繰り返し行う。 ・実験や調べ学習から自分の考えを深めたうえで、話し合いをするなどの活動を取り入れていく。